
silver-soul

たいむぱーそん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

silver-soul

【Nコード】

N7908J

【作者名】

たいむぱーそん

【あらすじ】

銀時「何だかんだ言っつてこの話って・・・俺出てなくね？」

神楽「ホントだよ

真選組のムサイ連中しか出てこないアル」

新八「仕方ないでしょ

僕は映画の予告にすら出てないんだから」

銀時「・・・あーそうだな

次から眼鏡出しとくわ」

新八「何？僕は眼鏡が本体なワケ？・・・ふざけるなアアア！！」

近藤「えー

みんな もう

知っていると思うが

先日

宇宙海賊“春雨”の

一派と思われる

船が沈没した

しかも聞いて驚け

コノヤロー

なんと奴らを

壊滅させたのは

たった二人の侍

らしい……」

ワイワイガヤガヤ

土方「……驚く

どころか誰も

聞いてねーな」

近藤「トシ」

ガチャ（バズーカの音）

ドガン

近藤「えー

みんな もう

知っていると思うが

先日

宇宙海賊“春雨”の

わかる
だが問題は
ここからだ
その麻薬の密売に
幕府の官僚が
一枚かんでいたとの
噂がある
麻薬の売買を
円滑に行えるように
協力する代わりに
利益の一部を
海賊から
受けとっていたと
いうものだ

真偽のほどは
定かじやないが
江戸に散らばる
攘夷派浪士は
噂を聞きつけ
『かん賊討つべし』
と暗殺を
画策している
真選組の出番だ!!」

〔官僚（禽夜）の屋敷内〕
土方「こんの野郎は・・・
寝てるときまで
人をおちよくった
顔しやがって

オイ起きろ コラ
警備中に惰眠を
むさぼるたア
どーゆー了見だ」

沖田「なんだよ
母ちゃん

今日は日曜だぜイ
ったく

おつちよこちよい
なんだから」

土方「今日は火曜だ！！

てめー

こうしてる間に
テロリストが

乗り込んできたら

どーすんだ？

仕事なめんなよ 「コラ」

沖田「俺がいつ

仕事なめたっ

てんです？

俺がなめてんは

土方さんだけでさア」

土方「よーし！！

勝負だ 剣を

抜けエエエエ！！」

ガン ガン（殴る音）

二人「いっっ」

近藤「仕事中に何

遊んでんだアアア！！

お前らは何か！？

修学旅行気分か！？

枕投げかコノヤロー！！！！」

ガン（殴る音）

近藤「いゝっ」
カエルっほい

禽夜

「お前が一番

うるさいわアアア！！

ただでさえ

気が立つてる

というのに」

近藤「あ

スンマセン」

禽夜「まったく

役立たずの猿めが！」

沖田「なんだイありや

こっちは命がけで

身辺警護して

やってるのに」

土方「お前は寝てただろ」

沖田「幕府の高官

だかなんだか

知りやせんが

なんであんなガマ

護らにやイカン

のですか？」

近藤「総悟

俺達は幕府に

拾われた身だぞ
幕府がなければ
今の俺達はない

恩に報い

忠義を尽くすは

武士の本懐

真選組の剣は

幕府を護る

ためにある」

沖田「だって

海賊とつるんでた

かもしれん奴ですぜ

どうものれねーや

ねエ土方さん？」

土方「俺はいつも

ノリノリだよ」

沖田「アレを見なせエ

みんなやる気

なくしちまって

山崎なんか

ミントンやってますぜ

ミントン」

土方「山崎イイイ

てめっ何やってんだ

コノヤロオオ!!!」

山崎「ギヤアアアアア」

近藤「総悟よオ

あんまりゴチャゴチャ

考えるのは止めとけ

目の前で

命狙われてる

奴がいたら

いい奴だろーと

悪い奴だろーと

手エ差し伸べる

それが人間の

あるべき姿って

もんだよ

あゝっ！！ちよつと！

勝手に出歩かんで

ください！！

ちよつとオオ！！」

沖田「はあ」

底無しの

お人好しだ

あの人ア」

近藤「ちよつとオ

禽夜様

駄目だっつーの！！」

禽夜「うるさい！

もう引き籠り

生活はウンザリだ」

近藤「命狙われてんですよ

わかってんですか？」

禽夜「貴様らのような

猿に護ってもらっても
何も変わらんわ!!」

近藤「猿は猿でも

俺達や 武士道っつー

鋼の魂もった猿だ!!

なめてもらっちゃ

困る!!」

禽夜「なにを!!

なりあがりの

芋侍の分際で!!

おのれ陀絡

奴さえしくじら

なければ

こんな事には・・・」

近藤「あ?

ラクダ?

!!

(遠くの塔から銃を向ける男)

近藤「いかん!!」

ドオオオン(銃声)

隊士「局長オオオ!!」

男「チツ」

カンカン(階段をかけ降りる)

土方「山崎!!」

ダッ(山崎が追っ)

沖田「近藤さん!!

しっかり」

隊士「局長オオ！！」

禽夜「フン

猿でも

盾代わりには

なつてようだな」

沖田「（刀に手をかける）」

！！」

土方「止めとけ

瞳孔

開いてんぞ」

「その後 屋敷」

山崎「ホシは

“廻天党”と呼ばれる

攘夷派浪士集団

桂達とは

別の組織ですが

負けず劣らず

過激な連中です」

土方「そーか

今回のことは

俺の責任だ

指揮系統から

配置まで全ての

の面で甘かった

もっかい

仕切り直しだ」

山本「あのガマが

言ったこと

聞いたかよ！

あんな事

言われて まだ

奴を護るのか！？

野郎は人間の

ことゴミみてーに

しか思っちゃいねー

自分をかばった

近藤さんにも

何も感じちゃ

いねーんだ」

山崎「副長 勝手ですが

この屋敷

色々調べてみました

倉庫から

どっさり

麻薬が・・・

もう間違いなく

奴ア クロです

こんな奴を

護れなんざ

俺達がいる

幕府つてのは

一体どうなって・・・」

土方「フン

何を今さら」

隊士「！」

土方「今の幕府は

人間のためになんて

機能してねエ

んなこたア

とつくに

わかってた

ことじゃねーか

てめーらの剣は

何のためにある？

幕府護るためか？

將軍護るためか？

俺は違う

覚えてるか

あの頃

学もねエ

居場所もねエ

剣しか能のない

ゴロツキの俺達を

きつたねー芋道場に

迎え入れて

くれたのは誰か

廃刀令で

剣を失い道場

さえも失いながら

それでも

俺達見捨て
なかつたのは誰か

失くした剣を
もう一度とり戻して
くれたのは誰か

・・・幕府でも
將軍でもねエ

俺の大将は

あの頃から

近藤^{コイッ}ただだよ

大将は護るつて

言つたんなら

仕方ねエ

俺あ そいつが

どんな奴だろーと

護るだけだよ

気にくわねー

つてなら帰れ

ガララ（引き戸を開ける）

俺ア

止めねーよ」

ザ ザ（土方の足音）

土方「・・・？」

「・・・」

（沖田が禽夜を磔にして火を焚いている）

土方「何してんのオオオオオ!!」

お前!!」

沖田「大丈夫 大丈夫
死んでませんぜ

要は護れば

いいんでしょ?

これで敵

おびき出して

パパツと一掃

攻めの護りでさア」

禽夜「貴様ア

こんなことして

タダですむと・・・

ガゴ(口に薪をつつ込まれる)

もぺ!!

ズゴズゴ(更につつ込まれる)

むが!!」

沖田「土方さん

俺もアンタと

同じでさア

早い話

真選組にいるのは

近藤さんが

好きだから

でしてねえ

でも何分

あの人ア 人が

良すぎらア

他人のイイところ
見つけるのは得意だが
悪いところを
見ようとしねエ

俺や

土方さんみてーな
性悪がいて
それで丁度
いいんですよ
真選組は」

土方「フン

あー

なんだか今夜は
冷えこむな・・・
薪をもつと焚け

総悟」

沖田「はいよっ！！」

禽夜「むごオオオオ！！

もぐらっは

めっそ

チュイン（矢が薪に刺さる）

！！」

浪士「天誅ううう！！

かん賊めええ！！
成敗に参った！！

どけエ

幕府の犬ども
貴様らが如き
にわか侍が真の侍に
勝てると思うてか」

沖田「おいでなすつた」
土方「派手にいくとしよーや」
近藤「まったく
喧嘩っ早い奴等よ」

二人「！」
近藤「トシと総悟に
遅れをとるな！！」

ワツ（隊士が走り出す）
バカガエルを
護れエエエエ！！」
二人「（微笑む）」
土方「いくぞオオオ！！」

〔万事屋〕
バサツ（新聞を広げる）
神楽「おてがら真選組
攘夷浪士大量検挙

幕府要人
犯罪シンジケートとの
癒着に衝撃・・・

・・・銀ちゃん」
銀時「あー？」
神楽「癒着って何？」

銀時「……………」

カーゴーカー（カラス）

神楽「オイ

とほけてんじゃねーぞ

天然パーマ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7908j/>

silver-soul

2010年10月9日05時51分発行